

梅窓院通信『青山』
発行／梅窓院 編集／青山文化村
発行日／平成13年1月1日
発行人／中島 真成
住所／〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
電話／03-3404-8447
FAX／03-3404-8107
http://www.baisouin.or.jp/
E-mail/jodo@baisouin.or.jp

青山

AOYAMA

題字／浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆猊下

謹 賀 新 年

梅窓院第二十五世
中島真成



清浄華院御法主台下(右と)

新年明けまして、おめでとうございます。
皆さん、お元気で初春を迎えられていただけることと拝察申し上げます。
昔は、お正月を迎えることで、みんなが一緒に歳をとったそうです。除夜の鐘で煩惱を払い、新年を迎え神仏に初詣をし、皆で新年と誕生のお祝をする。おじいちゃんもおばあちゃんもお父さんもお母さんも、子供たちも一緒に歳をとり、お節料理を楽しみ、書き初め風あげ羽根つき、そして独楽まわしに百人一首かるた取り。まさにこの国、日本の伝統です。
ここでお知らせです。この号から日本型薬膳の武先生に連載をお願いしました。第一回は正月にちなみ行事食の行事食たるゆえんを教えてくださいたいです。とても実用的ですし、楽しく読んでいただけることと存じます。
さて、お祝といえは、この梅窓院にかつていらつしやう、浄土宗の宗務総長も務められた高崎、安国寺の御住職、先生が大本山清浄華院の御法主にあがられました。写真は先生の晋山式で御一緒させていただいた記念の



一枚です。浄土宗には全国に七つの大本山がありますが、清浄華院はその一つで京都の御所の近くにありまます。大本山の中では大きい伽藍ではありませんが、その佇まいはさすが京都の古刹です。以前、団体参拝で訪れた方はご記憶でしょう。
何やら新年の挨拶が最後になつてしまいました。
本年も梅窓院をよろしくお願い申し上げます。
合掌三拝

境内散策

観音堂

創刊号の「青山」梅窓院史に江戸時代の古地図を掲載しましたが、そこに梅窓院観音堂を見つけた方も少なくないでしょう。観音堂は当院のシンボリックな建物です。写真はかつての観音堂ですが、その風情が偲ばれます。
ちなみに写真の観音堂は、戦後再建され、昭和五十五年まで使用されたものです。



かつての観音堂

行事紹介

第二十二回 念仏と法話の会

三月七日(水) 午後一時
法話 宮城教区 光明院
奥 清隆上人

※詳細は、同封の申し込みハガキを御覧下さい。

春彼岸会大法要／彼岸寄席

三月二十日(火)
法要・午後一時～ 祖師堂
寄席・午後二時半～ 観音堂
落語 柳家さん喬師匠

仏教講座 ご案内

『往生要集』を読む 全五回

講師 新井俊定先生

(第一回・二回は終了)

第三回 一月二十五日(木)

第四回 三月二十二日(木)

第五回 五月十日(木)

午後六時半～八時半

宗教学概説 全三回

講師 川添崇先生

(第一回・二回は終了)

第三回 二月二十四日(火)

午後六時～八時

お問い合わせ・お申し込み

仏教研究所

〇三三四〇四一八四四七

梅窓院通信

『今年の干支』

21世紀のスタートである2001年の干支は『巳』です。『巳』には「起こる」「奮起する」という意味があり、あらゆるものが成長・発展するなど、夢を叶える力があるとされています。

また、巳年生まれの方は、習慣に囚われない自由な発想と向上心を兼ね備えています。



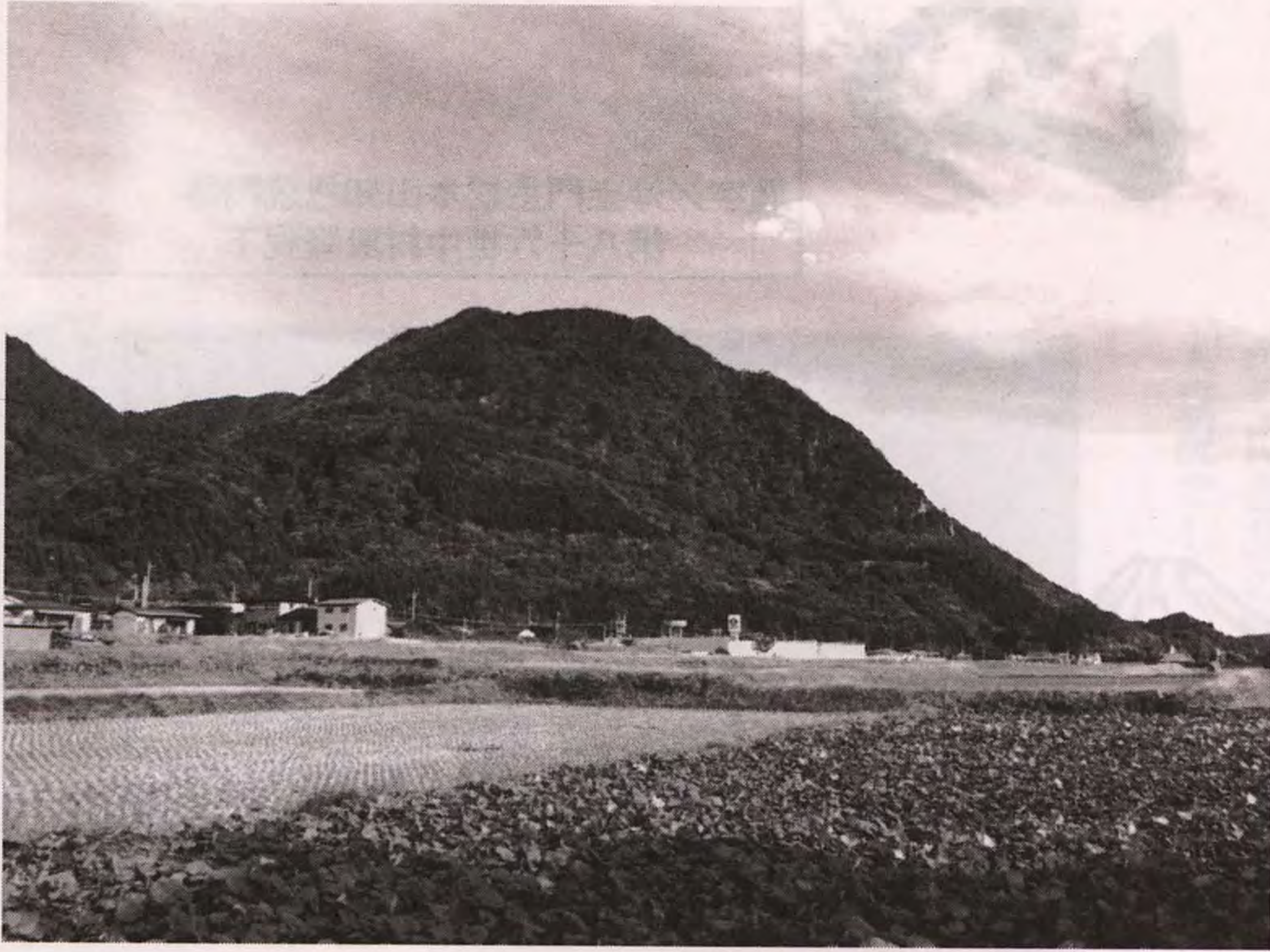
青山 梅窓院史

《地名の由来は》

その三

梅窓院の歴史を訪ねるこのシリーズ、第三回は「青山」という地名の由来についてです。国道二四六号線沿にある梅窓院ですが、この辺りを青山と呼ぶようになったのはなぜでしょう。

青山家が三河からこの地に屋敷を構え、一寺を建立したのがこの梅窓院です。以来、青山家の屋敷があることから



常緑樹が多かった中之条の青山

青山と呼ばれました。あれ、それだけ？

いいえ今回はさらにそのルーツに迫ります。なぜ「青山家は青山と名乗ったか」という歴史を紐解きます。

青山家のルーツは近江の国で、平安時代にその権勢をふるった藤原家の血筋です。近江という近江牛や近江商人を思い浮かべますでしょうか。

近江は現在の滋賀県で、京都に隣接し、日本一の湖、琵琶湖を有する県です。その近江の国の師重という人が青山と名乗る初代で、師重は藤原四家の一つ花山院家です。この師重が尹良親王に従い新田荘に下ったことから青山姓の歴史が始まります。

新田荘は今の群馬県で、「上州新田郡三日月村で生まれ：」のナレーションで始まるかつての人気テレビ番組「木枯らし紋次郎」でこの新田の名前を聞いた方も多いでしょう。当時の新田荘は相当広かったのですが、師重が移り住んだのは花山院の故領で、今の吾妻郡中之条町です。中之条町は渋川と草津のほぼ中央、

ローマンチック街道と呼ばれる国道一四五号と国道三五三号の交差しているところです。町は吾妻川を望む高台にあり、青山は中之条中心部に隣りに位置します。師重はこの青山郷に住んだのです。

一年中緑の山が名前の由来

群馬は温泉で有名なところ、いくつもの温泉の看板が国道沿いに並んでいます。その道沿いの渋川寄りに下青山のバス停があり、そこから平坦な地が開け、青山となります。下青山、青山の二つのバス停しかない広さですが、そのシンボルが青山です。

標高七四七メートルのこの山には大変松が多く、四季を通じていつも青々としていたそうです。それでこの辺りを青山と呼んだのです。この青山の地名から師重は青山姓を名乗ることになります。

ちなみに師重がこの青山に移ったのは南北朝時代の元中元年、一三八四年のことです。から、青山姓の歴史は六百年を超えることとなります。

やがて師重は三河に移り住み、そして青山家は徳川家の最古参の譜代となり、青山忠成の時、家康の命に従い現在の地に居を移しました。そして関東入国の準備を整え、その子忠俊が家光の守役に抜擢されましたが、それは昨年のNHKの大河ドラマで御覧の通りです。

さて、こうして青山姓のルーツを探っていくと、ひとつの山に辿り着くのです。一年を通して松の木で青々としていた山の名が人の名になり、その人の名

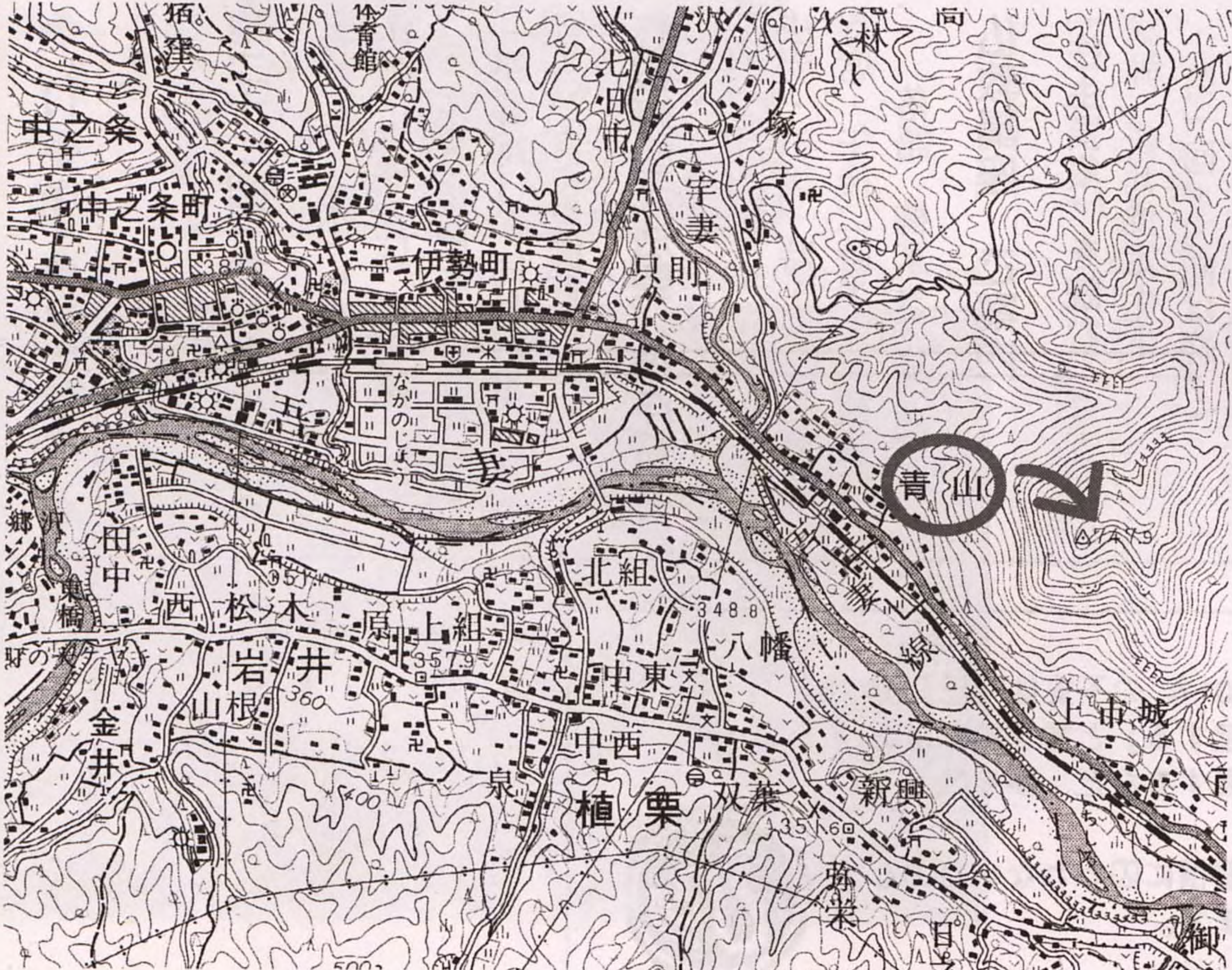
が再び地名になったのです。

群馬県吾妻郡中之条村青山は東京から車でおよそ三時間、皆さんも機会があったらぜひ一度立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

(ルポライター 真山剛)



国道353号沿に立つ電柱



吾妻郡中之条付近の地図

梅窓院の昔の話をご存知の方、伝え聞いていらっしゃる方、往時の資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、どんな小さなことでも結構ですから、ご一報いただければ幸いです。

東京友禅学院作品展

ドイツ国会議事堂前での友禅学院のみなさん



平成十二年九月七日〜十月七日
ドイツ・ベルリンにて

ドイツ連邦共和国建国五十周年、並びにベルリンの壁崩壊十周年の記念行事に伴い日本を総合的に紹介する「ドイツにおける日本年」が開催された。

「二十一世紀における日独の新たな出会い」というテーマのもと、日本伝統文化の紹介として東京友禅学院の作品展が行われた。

東京友禅学院は、昭和四十

ベルリンの壁の跡



三年に、伝統工芸としての友禅染めの担い手を育成する学院として、梅窓院の支援を受けた
氏が創立。現在は、中島住職が学院長を務め、数多くの職人を輩出している。

今回の会場となったベルリンは、東西ドイツが統合され首都機能の移転に伴い、活気を取り戻し、人々の熱気を感じながらの開催となった。

開会に先立ち、ブランデンブルク門から国会議事堂前まで、学院生が艶やかな着物姿で歩き展示会をアピールした。着物姿は瞬く間に注目の的となり、改めて海外における着物の人気の高さを感じた。

開会式には日本大使館職員
の 氏、画廊の 夫妻、画家の 氏を始め、各国の招待客が出席した。

ブランデンブルク門前の記念撮影

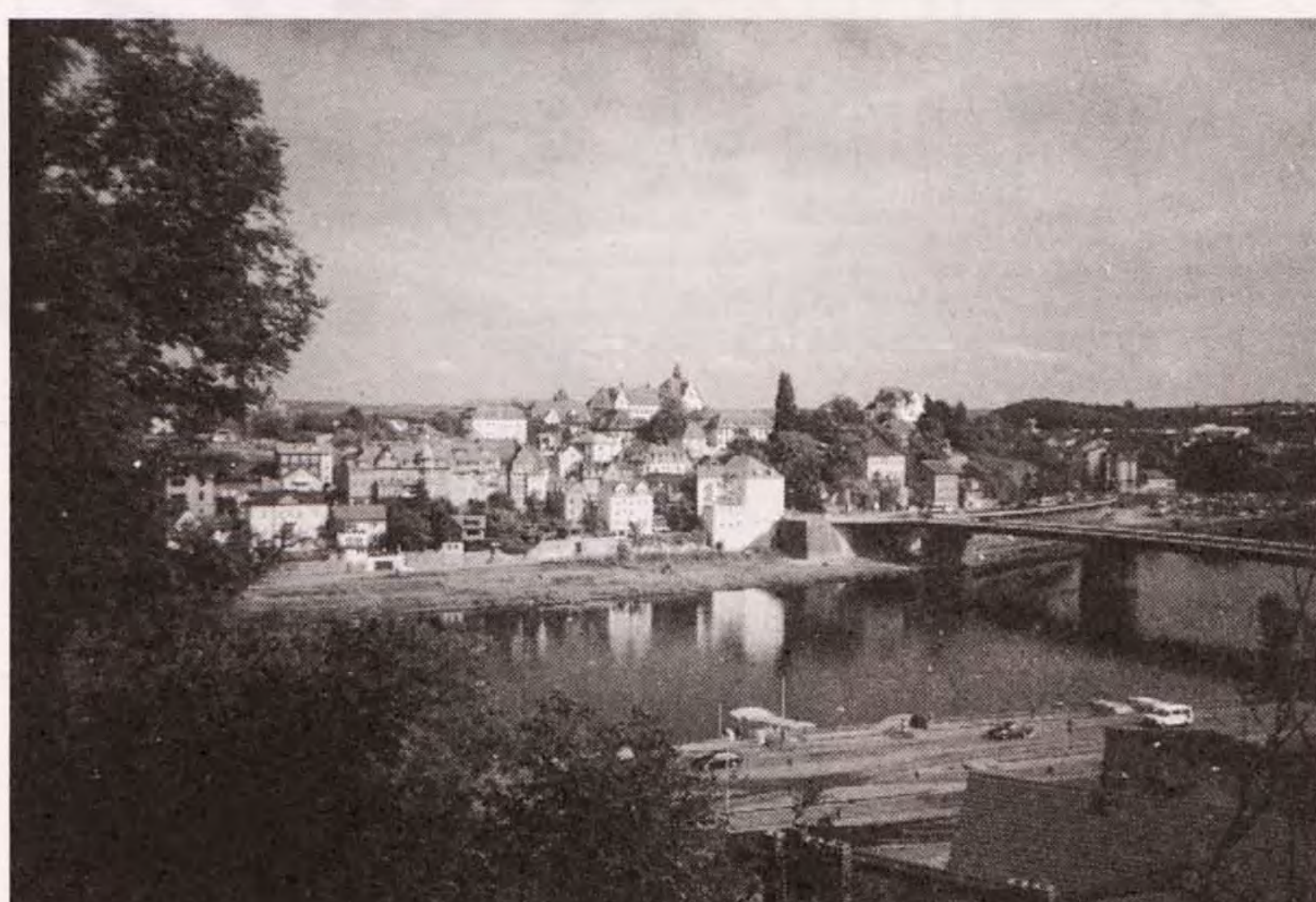


席し華やかなセレモニーとなった。挨拶に立った中島学院長は、この企画に参加できたことを感謝し、準備にご尽力を頂いた方々にお礼を申し上げた。

招待者の中には、着物を身近で見るのが初めの方も多く、着付け、帯のデザインなどの質問が寄せられ、学院生も対応に大奮だったが、終始和やかな内に終了した。

開催中は、マネキンを使つての着付けの実演も行われ、着物への一層の理解を深めることが出来た。普段はとても静かな街が、開催期間中は人通りも多くなり、華やいだ雰囲気となっていた。

この後一行は、ピアノリサイタルでおなじみM・フィン・デン・フック氏を訪ねウイーンに向かった。
(石上)



マイセンの街並

青山俳壇

選者・「俳句朝日」顧問

大崎 紀夫

当季

雑詠

『青山俳壇』も二回目を迎えて、前回よりも投句が増えてまいりました。当季雑詠をテーマにした今回の入選は次のとおりです。おめでとうございました。

◎特選

新涼の宝塔なぞる風の音

横浜市

新涼の気配をおびた宝塔を風が撫でていているという景を詠んで、さわやかな句です。

◎佳作

御和讃にひとみ潤ます冬すみれ

大磯町

母に似る姉の姿や墓まいり

八王子市

天高しポプラ並木の高ければ

練馬区

曼珠沙華燃えて休耕田なりし

天草郡

のぼり坂透ける日傘の影を住く

文京区

名月を仰ぎ眺める人となる

中央区

◎選者詠

日のいろを残して暮るる烏瓜

大崎紀夫

『青山俳壇』投句募集

『青山』では皆様からの俳句を募集しております。選者は『俳句朝日』の顧問、大崎紀夫氏です。次回のテーマは「初旅」「寒椿」「白菜」のいずれかをお選びください。一月二十日を締切とし、三月上旬発送予定の「春彼岸号」にて発表させていただきます。応募は、ハガキ一枚に一句とし、住所、電話番号、氏名、年齢を忘れずにお書き下さい。お待ちしております。

※港区南青山二二二六二三八

梅窓院

◆ワンポイントアドバイス◆
旧カナ新カナの使い方は、
ご自身でご選択ください。

仏教研究所だより

仏教講座

『往生要集』を読む 第一回
九月二十八日 開講

講師 新井俊定先生

◆◆◆
今回は「源信の生涯と実績」と題しましてお話頂きました。源信の説く浄土思想と、その時代背景について、様々なエピソードを交えての講義となりました。

◆◆◆
仏教心理学の世界 第一回
十月二十一日 開講

講師 川添崇先生

◆◆◆
近年、関心度の高い心理学の中でも、特に注目されているのが「仏教心理学」。第一回目は、仏教の持っている心理学的研究と、禅・念仏・密教などが目指しているものは一体、何であるかについて、お話をして頂きました。

念仏と法話の会

十月三日 開催
講師 岩手教区花巻組
鳥谷寺住職 吉水正教上人

◆◆◆
最終回を迎えた吉水上人の連続法話「年中行事」では、「お十夜」「成道会」「晦日」についてお話して頂きました。今回の精勤表彰者の中には、皆勤賞の方もいらっしゃり、大変喜ばしく思います。



表彰された皆さん



店の前での記念撮影。

西萩窪

さん

お寺は多くの人が
集う憩いの場。
そんな縁の深い皆さまに
梅窓院への想いを
語って頂きました。
第一回は毎年
団参に参加されている、
檀家の
さんです。

(編集部)



思出を語る

さん

「昭和十九年、麻布十番の家
が戦争で焼けるまでよくお寺
に行きました。」

初詣、春秋の彼岸、お盆、
お施餓鬼、そして法事。

お寺に行く時は必ず革靴を
はかされ、身なりはきちんと
させられました。

そんなことをさせられるのは
お寺に行く時だけでしたから、
子ども心にも格式の高さを感じ
ました。

お寺に行くと、お菓子が出
てくるし、会館地下室で、か
くれんぼはできるし、どんぐ
りも拾えた。そうそう、けん
すいもお坊さんに教わりまし
たよ。それに帰りには近くの
『いせや』という店に寄ってあ
んみつを食べたり。お寺の思
い出は楽しいことばかりでし
たね。」

さんは昭和四年、東京
の平井で生まれ、麻布十番で
育った。戦災で麻布から大森
に移るが、三日後にその家も

焼失。一時、阿佐ヶ谷に身を
寄せ、昭和二十四年、現在の
西萩窪に落ち着いた。

憧れていた軍人さんにはな
れなかったが、兄を手伝う形
で西萩窪でそば屋を開業。昭
和二十六年のことだった。

店の名は藪平。藪伊豆の藪と
の平をとった名で、さ
んがとてもお世話になったとい
う藪伊豆の さんの命名。

昭和三十年代には、住み込
みで十人以上の人を抱えるほ
どだった。現在は時代の流れ
もあり、出前を中心に家族で
店を切り盛りしている。

もちろん さんの右腕は
妻の さん。実は さん
は浅草日本堤の老舗天ぷら屋
「いせや」の娘。おかげで藪
平の天ぷらは老舗仕込みの本
格派。

そして五年前から調理場を
まかされている長男、
さんとその奥さんの さん。
この理想的な家族構成で作る
そばは、雑誌にも取り上げら
れるほど。お品書きも藪平な
らではの品々が並ぶ。

こうしてみると順風満帆の
ようだが、五年前、 さん
は大病を患った。何とか命拾
いはしたものの、当時お見舞
いに来てくれた知人たちは今
の さんを見て、その回復
振りに驚くという。

「わたしは本当に恵まれてい
ます。『先祖を大事にしる』が

おすすめの天せいろ



父の遺言でしたが、両親とも
に信心深く、わたしも子ども
の頃から朝晩のお参りは欠か
しませんでした。

おかげで今は息子も、それ
に孫までも必ず朝晩、仏壇に
手を合わせてくれます。毎日
のことですが、そうした姿を
見ていると心安らぐものをい
つも感じます。

それにお盆の時は必ず、家
族そろって迎え火と送り火を
焚きます。近所でこうした習
慣を残している家はうちぐら
いのようです。」

お話をされるそのお顔を見
ていると、いついかなる時も、
本当に一所懸命生
きている方だと
思っています。

「わたしが無言のうち
に励まされた
ようだった。」



今でも大事にされている梅窓院の泰平観世音御守護。中には福銭が入っている。

食は命なり

武 鈴子

行事食と薬膳

『医食同源』——私たちの日常の食生活には、医療の根拠があると言われていています。今号より、『青山』では日本型薬膳の研究家である武先生に、旬の食材を用いた薬膳料理をご紹介します。この機会に、日頃の食生活を見直してみたいかでしょうか。

一年の食行事は元旦から始まります。元旦にはお雑煮を食べ、お屠蘇を飲みますが、雑煮はもとほ、臓腑を保護するので保臓と呼んだといえます。また、ほうぞう煮雑から煮雑へ、そして雑煮と変わっていったともいわれます。

元旦に飲む屠蘇は中国から伝来した薬酒で、年始にこれを飲めば、一年の邪気を払い延年できると伝えられています。

◆◆◆
一月七日は七草粥。セリ、ナズナなどの春の若草には、解毒作用があり、私たちの先祖はそれを体験から認識して、食べ過ぎや飲みすぎによる胃腸の疲れを、解毒性の強い薬草をお粥にして食べることによつていやしたのです。

◆◆◆
一月十五日は小豆粥。小豆粥は十五日の上元の祝いに食べたので、十五日粥ともいい、小正月を祝って神に供え、人も祝って食べました。この風習も、一年の邪気を払うものとして食べられました。

◆◆◆
小豆はお赤飯、おしるこ、おはぎ、料理のいとこ煮、和菓子のあんこなど、行事食をはじめ日本ではあらゆるものに小豆が利用されています。これはなぜでしょうか。小豆の効能を調べてみますと、もつとも大きな働きは利尿作用があることです。このため昔

から、心臓病、腎臓病、脚気など、あらゆるむくみのある症状によく使われてきました。特にむくみには、尿の出がよくなるので、症状が軽くなるようです。また、皮下脂肪が貯まるのを防ぐビタミンB1を多量に含んでいるため、ダイエツトに効果的です。

◆◆◆
小豆の効果をより高める方法としては、小豆の五倍の量の水で小豆がやわらかくなるまで煮て、その煮汁を飲む方法があります。腎臓の働きが弱つていて、尿の出が悪いために、むくんでいる人の改善に効果があります。ただ、この場合は飲むときにひとつまみの自然塩を入れて飲むことをおすすめします。砂糖は効果を半減します。

◆◆◆
一月二十日は骨正月ともいわれ、正月に食べ残ったぶりなどの骨を整理して雑炊を作つて食べるなど、昔の人は食物を健康を維持するための薬ととらえ、病気にかからないための食餌療法をなによりも大切にしていました。

◆◆◆
五節句の一つ一つにそれは盛り込まれています。五節句の行事はもとほと中国から伝来したもので、始めは朝廷の節会として行われました。節会とは季節の変わり目などの祝い日などに行われた宴のこととて、その日に供される供御

を節供とよぶようになりました。そして行事と料理のむすびつきが、節供という呼称になつて、行事食が打ち出されるようになったといえます。そして、私たちの先祖は、この行事食にちなんであらゆる健康管理を行つてきました。

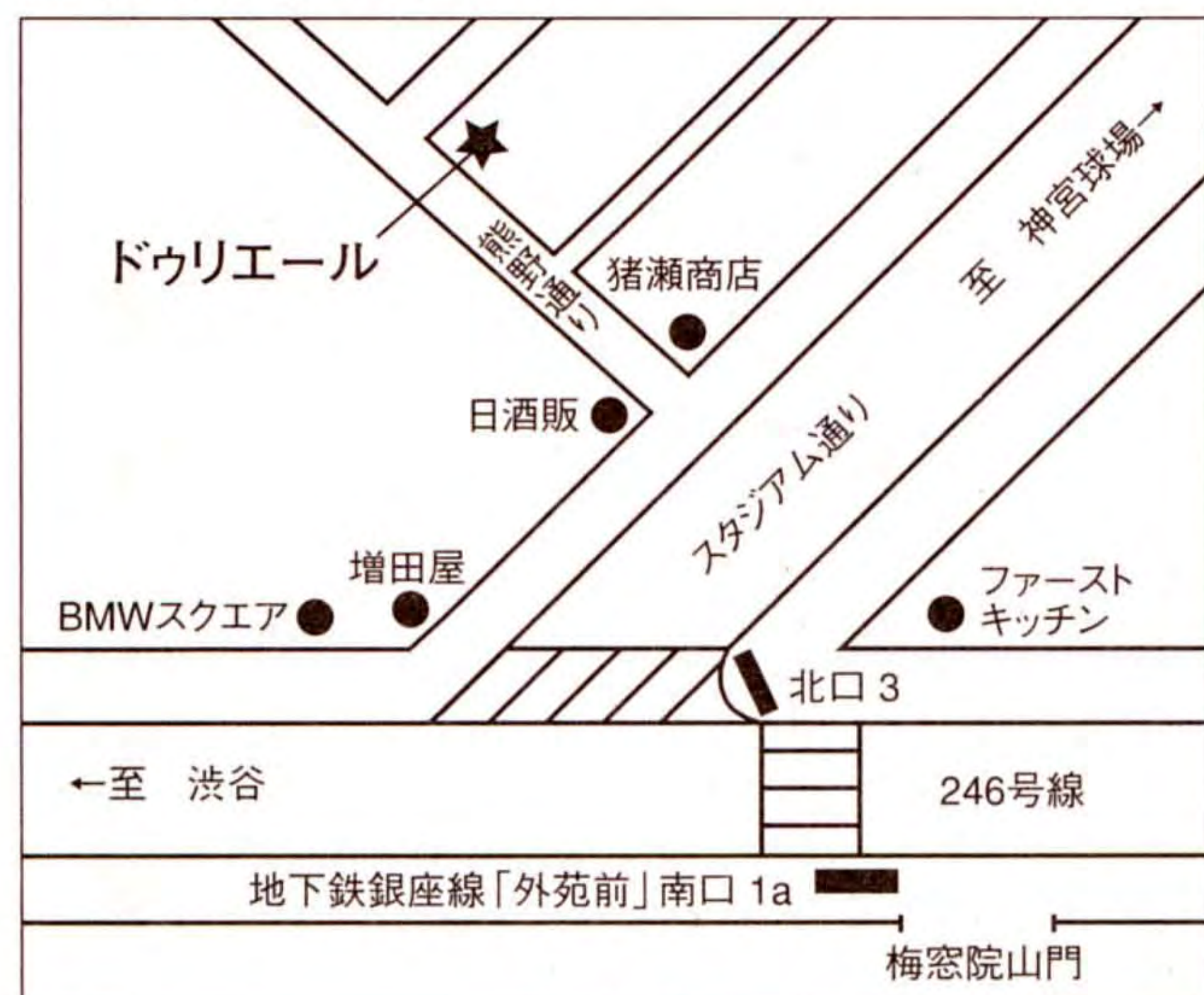


武 鈴子プロフィール

<たけ りんこ> 1937年鹿児島県生まれ。'70~85年柳沢成人病院研究所に勤務し、成人病と食生活の臨床研究と指導に従事。'86年中国医学の一分野としての「薬膳」の研究のため訪中、日本の気候風土にあった薬膳理論・料理技術を学ぶ。現在、(有)東京薬膳研究所主幹、食養研究家、日中医薬研究会会員。このほかにも、薬膳料理教室運営、健康食品業界コンサルタント、健康食品開発指導などに携わっている。



営業時間 11:30~24:30
 年中無休
 TEL 03-3402-5559
 梅窓院より徒歩5分



青山散歩道
ドウリエール
北青山店

お参り後のひと休みに、くつろぎカフェをご紹介します。フランス語で“裏通り”を意味するドウリエール。その名のとおり青山通りから一本奥まった場所にあるお店は、ボサノバのBGMが流れ、オーク調で統一された店内がとても落ち着いた雰囲気。

おすすめはブームの火付け役にもなったミルクレープ。そして生クリームと相性抜群のふわふわシフォンケーキ。どちらも甘さ控えめでいくらでも食べられそう。他にも十二〜三種類のケーキが並び、どれも素材からこだわった自信作。さらに飲み物も種類豊

富で、新メニューの中国茶は本格的な茶器で味わえ目も楽しめるのは、うれしい心遣い。おいしいお茶とお菓子で一息ついて、居心地のよい青山がまたひとつ見つかるはず。

ケーキ 全品六〇〇円
 シフォン・ミルフィーユ
 チーズケーキ・モンブラン

飲物 七〇〇〜一二〇〇円

◆紅茶◆
 アールグレイ・ダーズリン
 アッサム・ロイヤルミルク
 ◆コーヒー◆
 アメリカン・エスプレッソ
 カフェラテ・カプチーノ

◆中国茶◆
 阿里山烏龍茶・東方美人茶
 真珠花茶(ジャスミン茶)

落ち着いた雰囲気の店内

お寺にお見えになられた時に寄ってみたいところ、入ってみたいお店などありましたら、お知らせ下さい。青山散歩道で取材し情報をお伝えいたします。



郡上おどりを in 青山

九月十五日・十六日 開催

当院境内にて二夜連続、郡上おどりが開催されました。江戸から岐阜の郡上八幡へ移った、梅窓院開基の青山家がこの地に居を構えての四〇〇年記念で始まり、今回で七回目。地域の皆様の参加も増えて来ました。今年も郡上八幡から郡上おどり保存会のメンバーが参加、悪天候ながら本場さながらの盛り上がりを見せました。

観音堂での物産展も、天然鮎の串焼き屋台をはじめ、地酒や民芸品の販売などがあり、大盛況でした。(青山文化村)

郡上おどりで賑わう境内



施餓鬼会大法要

七月二十一日

毎年恒例の施餓鬼大法要では、暑さのなか二百名近くのお檀家様が出席されました。



食作法をみんなで行う客殿でのお齋(とき)

秋彼岸会大法要 彼岸寄席

九月二十三日

法要後には、春雨や雷蔵師匠による寄席が催され、観音堂は多いに賑わいました。



秋彼岸会大法要、祖師堂にて



寄席ではオカリナを吹く一幕も

平成十二年度 梅窓院団参 法然上人二十五霊場巡拝

十月十日〜十二日 実施

法然上人ゆかりの地を訪ね、四国・神戸方面へ向かいました。今回は、鎌倉時代に法然上人が立ち寄られたという法然寺・如来院・十輪寺・報恩講寺を参拝しました。

歴史ある土地ゆえ、それぞれの寺に纏わる逸話が残り、興味深いお話を聞くことができました。このお話が楽しみで団参に参加していらっしゃる方も多く、大変好評でした。

天候にも恵まれ、比較的ゆったりとした行程で、お檀家様同士の交流もさらに深まり、有意義な団参となりました。(青山文化村)



鳴門海峡大橋にて



報恩講寺での参拝

高松・法然寺の寝釈迦像の前にて記念撮影



平成十三年度分納付のお願い

護寺費・管理費(檀家) 年会費・管理費(檀家外) ※檀家様で当院内に墓地を所有でない方には、管理費の請求はありません。

平成十三年度分

平成十三年四月一日より 平成十四年三月三十一日まで

※二月頃お手元に届く振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、もしくは当院受付まで直接お持ち下さい。宜しくお願い致します。(檀信徒部)

元旦から3日までの間、初参りに来られた方には、受付にて絵馬を無料でお分けしております。ただし、御家族で1個までとさせて頂き、2個以上ご希望の方は、1個500円でお分け致します。